

Poised to Sprint



crocs



CNNスペシャル
インタビュー

コロナ禍でも絶好調! 「クロックス」急成長の秘訣とは?

アンドリュー・リースCEO



BUY ONE
GET ONE
FOR 50% OFF*

ポップでカラフルなデザインと快適な履き心地で、日本でも若年層を中心に人気を誇る「クロックス」。新型コロナウイルス流行の影響で打撃を受けるアパレル企業が多い中、クロックスはかなり堅調な成長ぶりを見せているようだ。その背景にはどのようなビジネス戦略があるのか。アンドリュー・リースCEOに聞いた。





■ジュリア・チャタリー

CNNのアンカー兼ジャーナリスト。CNNの経済番組「ファースト・ムーブ」のアンカーを務め、ニューヨーク証券取引所から金融市場の動きと最新経済ニュースのレポートを行う。ロンドン・スクール・オブ・エコノミクス卒業後、モルガン・スタンレーに入社。その後、2012年にCNBCインターナショナルに入局、2017年にブルームバーグに入局、翌年CNNに入局。



■アンドリュー・リース

クロックスへの入社前は、イギリスの経営コンサルティング会社L.E.K.の専務理事を務めた。その間の2013年から2014年まで、後に入社することになるクロックスのコンサルティングも行った。その後、英ファッションブランドのローラアシュレイや靴メーカーのリーボックで要職に就いたのち、2014年に社長としてクロックスに入社し、2017年にCEO就任。インベリアル・カレッジ・ロンドンで学士号を取得。

⑦ コロナ禍のさなかに収益16%増

Julia Chatterley Footwear brand Crocs has some experience turning a pretty ugly situation around. Its initially divisive colorful clogs are now streetwear icons, thanks to high-profile collaborations ranging from Justin Bieber to KFC. Latest earnings suggest the brand is also a pandemic winner, revenue surging some 16 percent as shoppers reached for comfort amid COVID-19 lockdowns. Joining us now is Andrew Rees. He's chief executive officer and director of Crocs.

Andrew, congratulations on some great earnings. I have to point out, though, it's not just one quarter: last year was a great year overall for you am...amid this turnaround. You do more business outside of the United States, actually, than you do in the United States, and before we talk about the numbers on what you're doing, I just want to get your

(be) **poised to do:**
《タイトル》～する用意ができて、～する態勢にある
sprint:
《タイトル》(短距離を)全速力で走る
turn...around:
…を好転させる
ugly:
ひどい、忌々しい
divisive:
賛否両論の
clog:
クロッグ ▶サンダルのような履き物。元は「木靴」のこと。
icon:
象徴的なもの・人
high-profile:
注目を集める
range from A to B:
AからBまで多岐にわたる
earnings:
業績、利益
revenue:
収益
surge:
急騰する、急増する
reach for:
～を求める、手に入れようとする
comfort:
快適さ、心地よさ
amid:
～の中で、さなかに
point out (that):
～ということを指摘する、挙げる
quarter:
四半期
overall:
全体として、全体的に見て
turnaround:
好転、(黒字への)転換

ジュリア・チャタリー フットウェア・ブランドのクロックスには、かなりひどい状況を好転させた経験があります。当初は賛否両論だったカラフルなクロッグは、今やストリートファッションの象徴となっています。ジャスティン・ビーバーからKFC(ケンタッキーフライドチキン)まで多岐にわたる注目のコラボレーションの成果です。最近の業績は、このブランドがコロナ禍の勝ち組でもあることを示しています。新型コロナウイルスによるロックダウンの最中に顧客が快適さを求めたことで、収益が約16%急増したのです。今回ご登場いただくのはアンドリュー・リースさん、クロックスの最高経営責任者兼取締役です。

アンドリューさん、素晴らしい業績の達成おめでとうございます。ここで注目すべきは、これが1四半期だけではないという点です。昨年は御社にとっては全体的に素晴らしい1年となりましたね、この好転のさなかで。実は、アメリカ国内よりも国外での取引が多くなっていますね。御社の業績の数字について伺う前に、新型コロナ患者が再び増加